



新聞記事を活用し、情報を質的に向上させるための取り組み



延原 宏

<抄録>

本校は商業高校であり、ビジネスを意識したプロジェクト学習の授業実践が行われている。収集した情報は、インターネットや朝日新聞社の新聞記事データベース「朝日けんさくくん」（以下「朝日けんさくくん」）を活用し、訴求力強化に結び付けている。

また、本校の独自の進路指導により、近年では国公立大学の進学者が50名を超えている。これらの入試では「小論文」を課されることが多く、図書館にも前述のネット環境を構築し、情報の裏付けや自らの考えを質的に向上させる指導に繋げている。

<キーワード>

学校図書館、朝日けんさくくん、課題研究、小論文指導、プロジェクト学習（Project-Based Learning）

② 2, 3年生で進学合宿、小論文指導の実施

③ 各学年で1対1の面接実施、モチベーションの向上

ここで意識しなければならない力が、発信力である。就職試験・大学入試ともに作文・小論文、面接を課されることが多い。つまり、ビジネス界では「言うこと」・「書くこと」のアウトプット（伝える力）を強く意識しているのである。ここでの答えは1つではなく、さまざまな情報を収集・分析して、自らの意見として伝え、相手を納得させる能力こそが生徒の「生きる力」となっていく。

そこで、本校ではプロジェクト学習だけでなく、小論文指導でも「朝日けんさくくん」を校内全てのパソコンからアクセス可能な状態で生徒たちに提供している。こうした環境構築が、授業実践・「小論文」作成・「面接」において、生徒が情報の裏付けを取り、自らの情報を主体的かつ質的にも向上させていく変化が見られたので報告する。

1 はじめに

文部科学白書¹⁾には、「学校における教育環境、教育の質的向上に地域の教育力を積極的に活用する」ことの必要性に触れている。特に、本校は商業高校であることから、ビジネス面から地域活性化を目指したプロジェクト学習（以下「PBL」）に商業科目「課題研究」開講講座「パソコン演習」において取り組んでいる²⁾（写真1）。



写真1 プロジェクト学習会議の様子

また、卒業後の進路では就職者より、大学進学希望者のほうが多いのが現状である。こうしたニーズに対応し、国公立大学・有名私立大学に合格させるために、以下のような取り組みを行っている。

① 1年時から進学ガイダンス実施、卒業生の進路体験を通して進路目標を設定

2 プロジェクト学習（PBL）での取り組み

本校の課題研究「パソコン演習」の授業では、学校近隣のビジネス面での活性化を目指したPBLに取り組んできた。これまでは、商店街の活性化を目指し、3つの商店街通り、個店（119店舗）を生徒が取材し、Web化する取り組みを行ってきた（図1）。

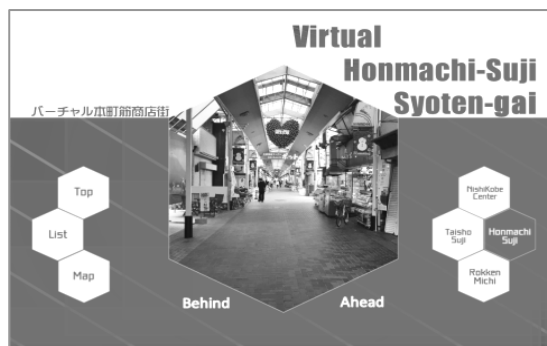


図1 バーチャル本町筋商店街

また、平成28年度から開始された活動として、地域の店舗を取材して冊子として発行する紙媒体での情報発信に取り組むPBLも開始された。企画会議では、地域と連携することで、活性化が可能なプランであり、学校にも近隣住民にもメリットがあるプロジェクトを立案・実践することとなった。

NOBUHARA, Hiroshi : 神戸星城高等学校（兵庫県神戸市須磨区緑が丘1丁目12-1）

これらの実践では、注目される情報・質の高い情報発信がなければ、閲覧者・読者を獲得することができない。そこで、取材した情報を発信する情報に仕上げていく際に、インターネットによる検索サイトの活用と「朝日けんさくくん」を活用した。特に「朝日けんさくくん」の活用では、全国各地の商店街が取り上げられた記事検索を瞬時に行うことができ、「全国でどのような取り組みが行われているのか」、「成功した事例にはどのようなものがあったのか」、「どのようにすれば多くの人々を巻き込むことができたのか」など、自ら取材して得た情報を質的に向上させていったのである。

3 図書館での取り組み

「朝日けんさくくん」を活用する前段階として、誰でも簡単に操作ができることが活用の前提条件であると考えて、「朝日けんさくくん」活用チラシを作成して、図書館利用者を中心に配付した(図2)。



図2 「朝日けんさくくん」チラシ

本校のライブラリは5階にあるため、検索のために4階のパソコン教室に移動する空間的・時間的なハンデをなくす工夫である(写真2)。

また、隣接する司書室には常に教職員が常駐し、ライブ



写真2 ライブラリでのPC活用の様子

本校の図書館(本校ではライブラリと称する)は、「学すべからく静なるべし」諸葛孔明の標語が掲げられ、生徒が自学自習に取り組む姿勢がこれを体現している。また、このライブラリにもノートパソコンを常設し、ライブラリ前方の席で小論文を書く生徒が調査に利用できる環境を構築している。本校のライブ

ラリの秩序維持とともに、進路や学習に対する悩み等、すぐに相談できる体制も整っている。このライブラリで得られた学習習慣は、大学進学への大きな原動力・成果となって表れている。本校では、「ライブラリに来なければ、よい進路決定は不可能である」といったジンクスが囁かれており、それが統計的にも立証されている。

4 情報の質的向上における活用効果

インターネットの検索サイトや「朝日けんさくくん」の活用により、生徒にどのような意識変化があったのかについて、プロジェクト学習参加生徒に対する聞き取り調査を実施した。その結果、「全国各地の成功事例を知ること、今後の活動に対する動機づけが高まるとともに、こうした取り組みをするために必要な準備・自らの勉強の方向性にも繋がった」など、メタ認知力の育成にもなっているような感想が聞かれた。

また、入試の「小論文」・「面接」の対策として取り組んだ生徒への調査では、「小論文の学習を開始したときには、どのように書いていいのかわからなかったが、多くの新聞記事を検索して読み込んでいくうちに、記者の視点や切り口のようなものが理解でき、書き方の理解へとつながっていったように思う」といった内面的な成長に焦点を当てたものや「新聞記事を過去からまとめた本もあるが、目的とした記事を探すだけで時間が掛かり、やる気がなくなってしまふ面があったが、記事検索をパソコンで瞬時にできるメリットは大きい」といった機能的な面での便利さを取り上げた意見も多かった。意見として出てくる視点は生徒によってさまざまだが、「簡易な処理で有益な情報収集ができれば、短時間で情報の質を高めることができる」との意識は、被験者である生徒に共通した認識であり、大きな活用効果を感じることができた。

5 おわりに

本校のビジネス場面におけるプロジェクト学習の実践段階・進路指導における「小論文」・「面接」の強化において、インターネットや「朝日けんさくくん」を活用し、自らの意見を質的に向上に活用している取り組みの一部を報告した。

特に環境面の整備が、インターネットや「朝日けんさくくん」の利活用と大きく結びついており、その重要性を認識することができた。「やったことは力になる」が実現できるネット環境の充実とやる気を引き出す教員の適切な指導が両輪となって教育の成果が導き出されることに間違いはない。

【参考文献】

- ・1)文部科学省(2011)『文部科学白書』
- ・2)文部科学省Webサイト「課題研究」

「http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320639.htm」